

(6) 2017年(平成29年) 8月31日(木曜日)

「黒人の命は大事だ」(Black lives matter)の運動が始まった当初、「それはちよっとおかしい。『みんなの命は大事だ』と言うべきだ」といった声もありました。その時僕は、それもそうかな、とよく分からないでいました。しかし、その後同僚の黒人の牧師に教えられて、なるほどと腑(ふ)に落ちたのです。彼はこういう例えで教えてくれました。

「ある住宅街で一軒の家に火事が起こったとする。消防車と救急車がサイレンをならしてやって来た。そして人々の群れの前に止まって一人の消防士が急いで尋ねる。『どの家だ?』そこで人々はその方向を指で指しながら声を揃えて答える。『あの家だ!』もちろん住宅街のすべての家は大事だ。しかし、今に焼け崩れるかも知れないあの家に駆けつけて火を消すことが今

されなければならないとあらためて思われました。先日、教会の幼稚園の園児たちに人種差別主義(Racism)をテーマに聖書

の隣人、仲間(当然ユダヤ人だけどあなた)は誰だと思うか、とイエスに質問したところ始まりません。「みんなは何人ですか」と聞くと「にほんじん」という答えが返ってきます。「日本人の友達は何人?」「にほんじん?」やや自信なさげなお返事です。

「ある日本人が暗い夜道を歩いていたら泥棒がきて、殴られてお金も何もかも盗まれて道端に倒れていたんだって。そこに通りかかったいつも良い事ばかり言っていた偉い政治家と立派な学校の先生は素通りしたのに、いつもみんなにあまり優しくされない外国人の人が駆け寄って手当をして助けてくれたんだ。さ

お友達って誰のこと?

南加キリスト教会教会連合

キム・ホンソン

は大事なのだ。『黒人の命は大事だ』と呼ばれることもそれと同じ文脈にある」

のお話をしました。イエスキリストの有名な例え話の中に「良きサマリア人」というのがあります。当

時、ユダヤの知識層であった律法学者の一人が、ユダヤ人

らにはその日本人を背負って近くの宿に連れて行ってお金まで払ってくれて、『また仕事が終わってから寄るからね』って言って先を急いだんだって。政治家の人と学校の先生と外国人の中で、けがした日本人のお友達は何だと思

「はーい」(聖霊の実ルーテル教会牧師)